

どんよりとした5月中旬の日に、事業の下見で秋川沿いの散策路を歩いて調べていました。暑くもなく、寒くもない、この季節だからこそ生き物は非常に多く、活発に感じられました。初夏の自然は最高です。

市内に残る貴重な田んぼでは水入れが始まり、その一部は既に満水となっていました。ニホンアマガエルの鳴き声が響き渡る中、鳥が見えたので双眼鏡で覗いてみると、カルガモ数羽とオシドリのオス1羽の美しい姿がありましたが、なぜか落ち着かない様子でした。かなり離れているわたしたちの存在が影響しているわけではないような気が…と、その時加瀬澤レンジャーが「ネコがカモをくわえて歩いている」と教えてくれました。離れてゆくネコが一度止まって振り向いた時、オシドリのメスをくわえているのがはっきりと見えました。その後、ネコが民家や茂みの間に抜けて行きました。

見失った水路沿いの茂みの近くまで移動し、見張っていると、オシドリがネコから逃げ出し、数メートル先の藪に避難しました。それを再び追うつもりで飛び出てきたネコが私たちにびっくりして捕獲に失敗しました。さらに現場から離れようとするオシドリは、傷ついているからかあまり飛べず、ぐったりした様子で歩いて茂みと民家の奥へ逃げてしまい、そのまま行方が分からなくなりました。

私たちを見つめ、びしょ濡れでがっかり気味のようにみえる可愛いネコの姿が残っただけ。首輪がなさそうで、耳に切り傷痕があるので、地域ネコでしょうか。とにかく市内で繁殖する数少ないオシドリは無事でいればと思いましたが、動きから考えますとその後は長く生き延びなかったかも知れません。地域ネコはこうした形で野生動物（自然）に影響を与えていることを思うと、やはりその在り方を改めるべきだと思いました。さらに野外では、地域ネコの餌場などで他の哺乳類と接することにより感染症やマダニの蔓延にも繋がするため、このような表に出にくい問題が多いように思います。今後は、どうしたら地域ネコも、人の生活も、自然も平等に守られるかは悩みの種です。



私たちは、環境教育を通して子どもたちにペットの命を最後まで養うことの大切さと責任について教えることや、こうして注意することしかできていませんが、社会が少しずつ良くなればと思っています。

(パブロ)